

修士論文(要旨)

2014年1月

中年期の職業人におけるキャリアとアイデンティティに関する質的研究

指導 種市 康太郎先生

心理学研究科

臨床心理学専攻

212J4006

鐘ヶ江 純江

## 目次

I.はじめに	1
II.目的	1
III.方法	1
IV.結果	1
V.考察	2

## I. はじめに

発達段階において中年期には、青年期に匹敵する人生の転機が存在する重要な時期であると考えられ、その中心テーマは「他者との関係性」であると考えられている。また、約 80%の人が「中年の危機」を体験するといわれているおり、危機の内容は、漠然とした人生への幻滅感・停滞感・圧迫感・焦燥感を主な徴候とするものであるものとされている。そのような背景を基に我が国では社会的にも、中年期における職業の問題が取りざたされている。このようなキャリアの節目ともいわれている中年期に、各個人が自分自身を振り返ることや、自分と同じ状況にある人の危機への対応策等を把握するなどして、自分の仕事への向き合い方や今後の仕事への対応を考えることが必要であると思われる。

## II. 目的

本研究では、40代から50代の職業人男女約20名へのインタビューによる調査をとおして、中年期の職業を有する男女に関して、第一に中年期の職業人の中年の危機とそれに対する不安や葛藤と、それに対する対応、第二に仕事に対する興味・価値観、第三にアイデンティティの様態について明らかにすることを目的とした。

## III. 方法

研究方法は、40代から50代の中年期の有職者(自営業・パート・派遣勤務含む)男女合計約20名を研究担当者の知人を基点としたスノーボールサンプリング法により抽出し、調査への協力を十分に説明したうえで協力を依頼し、同意書をとった後、ライフラインを活用して半構造化面接を実施する。対象者の許可を得てICレコーダーに録音した後、紙面に逐語記録としてデータ化し、KJ法とM-GT A(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)を用いて分析を行い、複数の概念の関係から構成されるカテゴリーを形成し、カテゴリー相互の関係から分析結果と、ライフライン図を基に、その概要を文章化し(ストーリーライン)、結果図を作成する方法を用いた。

## IV. 結果

インタビューデータを上記の方法に従って分析した結果、最終的に105個の概念が生成され、それが41の概念に分類された後に、さらに自分自身・家族・仕事そのもの・職場・社会環境の5つの領域と、ポジティブ・中立・ネガティブの3層からなる15のボックスが形成された。15ボックスに位置したカテゴリーは、自分自身に関する領域と仕事そのものに関する領域に位置する、ポジティブなカテゴリーが多かった。また、それぞれのボックスに位置するカテゴリーには、40代と50代での年代ごとの特徴や、男女の性別による特徴が見出された。また、ほとんどの調査対象者が、「危機」を体験しているが、その時期は中年期にもものあれば、中年期に入る前のものもあった。

さらに、ライフライン図の曲線に共通する特徴に着目し、インタビューデータと照合し、調査対象者の就業開始時から現在に至るまでの心理的プロセスを分析した結果、キャリアを軸とした心理的プロセスのパターンが4つに分類され、調査対象者の仕事に関する興味や価値観には、共通する部分があることが明らかになったが、カテゴリーや概念、プロセスといったものでは集約しきれない個別事例が数件見られた。

## V.考察

上記の結果から、本調査における中年期の職業人における、危機を体験への対処方法や、仕事への興味価値観、アイデンティティの様態については、個別性があるものの、年代や性別による一定の共通点があると考えられた。また、40代は現在と将来を意識し、50代になると、過去を振り返る傾向があり、男性は仕事に能動的、積極的、女性は受動的で職場に順応する傾向があることが見受けられた。また、中年期に該当する年齢は20年を超える長い年月であるので、中年期に入ってから心理的プロセスに的を絞った調査をすることによって、40代と50代の特徴が明らかになると考えられた。

## 引用文献

- 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者総合センター 2009 精神障害者に対する就労支援過程における当事者のニーズと行動の変化に応じた支援技術の開発に関する研究  
([http://www.nivr.jeed.or.jp/download/houkoku/houkoku90\\_01.pdf](http://www.nivr.jeed.or.jp/download/houkoku/houkoku90_01.pdf) 2013年7月1日確認)
- 金井 壽宏 2002 働くひとのためのキャリアデザイン PHP 新書
- 金井 壽宏 2003 キャリア・デザインガイド 白桃書房
- 河合 準雄 1996 中年クライシス 朝日新聞社
- 厚生労働省 2007 生涯キャリア支援と企業のあり方に関する研究会報告書のポイント  
(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2007/07/h0720-6a.html> 2013年7月1日確認)
- John D.Krumboltz and Al S.Levin 2004 Luck Is No Accident (花田光世訳 2005 その幸運は偶然ではないんです! ダイヤモンド社)
- Levinson,D.J 1984 The Season's of a Man's Life. New York, NY:BallarineBooks. (南博訳 1992 ライフサイクルの心理学 講談社)
- 宮田 義勝 2001 中年期の自我同一性の発達 発達人間学論議,4,53-63
- 夏目 誠 2010 うつ病の時代背景とライフイベント  
([https://www.jspn.or.jp/journal/journal/pdf/2010/03/journal112\\_03\\_p211.pdf](https://www.jspn.or.jp/journal/journal/pdf/2010/03/journal112_03_p211.pdf) 2013年12月13日確認) 精神経誌,112 213.
- 松尾 洋平・渡辺 三枝子 2007 現代の中年職業人が抱く不安感と心理的危機 経営行動科学,20, 155-168.
- 日本衛生学会 2012 今求められるメンタルヘルス対策、法律改正への要望  
(<http://www.sanei.or.jp/images/contents/213/Chairman%20Statement20120414.pdf> 2013年7月1日確認)
- 日本放送協会 2013 実現するか「失業なき労働移動」 クローズアップ現代  
([http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail02\\_3441\\_1.html](http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail02_3441_1.html) 2013年12月15日確認)
- 岡本 祐子 2002 アイデンティティ生涯発達論の射程 ミネルヴァ書房
- 岡本 祐子 2007 アイデンティティ生涯発達論の展開 ミネルヴァ書房
- 清水 紀子 2004 中年期の女性における子の巣立ちとアイデンティティ 発達心理学研究,15, 52-64.
- 下村 秀雄 2009 ライフライン法の予備分析を中心とした検討 独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
(<http://www.jil.go.jp/institute/discussion/2009/documents> 2013年7月7日確認)
- Schein,E.H 1990 Career Anchors:Discovering Your Real Values Revised Edition John Wiley&Sons (金井壽宏訳 2003 キャリア・アンカー 白桃書房)
- 杉村 和美・清水 紀子 2007 中年期と質的研究:転換期の意識に迫る 秋田 喜代美・能智 正博編 事例から学ぶ初めての質的研究法生涯発達編 東京図書 p.280-296.  
([http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000164590.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000164590.pdf) 2013年7月1日確認)

- 塚原 拓馬 2013 成人期におけるキャリア発達に与える要因と支援の在り方・成人期のアイデンティティ危機と職業・家庭要因からの考察・実践女子大学 生活科学部紀要第 50,99-110.
- 矢野 喜夫 1995 発達概念の再検討 武藤 隆編 金子書房 p37-56
- やまだ ようこ 1995 生涯発達をとらえるモデル 武藤 隆編 金子書房 p57-91